

辰野町国民健康保険運営協議会議事録

日 時	平成25年9月24日(火) 午後1時30分～午後3時
場 所	辰野町役場 第2会議室
出 席 者	野竹泰也・瀧川和恵子・金子文武・吉田まゆみ 各1号委員 古村慎二・有賀功 各2号委員 三堀善業・岩田清・矢ヶ崎紀男・臼田和広 各3号委員 有賀克明 4号委員 町長 事務局 向山住民税務課長・五味保健福祉課長補佐・赤羽国保医療係長 中村諸税係長・矢ヶ崎専門員・入原保健師・樋口係員・松澤係員

1. 開会のことば	向山住民税務課長より開会のことば
2. 委嘱書の交付	
3. 町長あいさつ	国保は各市町村が保険者となり運営をし、健全運営という宿命の中で頑張らせていただいている。1,500万円ほど今年度へ繰り越すことができたが、基金も底を尽き始めており、25年度に2,700万円の収納を見込み国保税の引き上げをした。しかし、所得が伸びず、1000万円しか見込めないのが現状。辰野町は住民の皆様に負担を掛けないように最低ラインをお願いをしているところである。これからも負担を掛けない運営をしていくように委員の皆様にはご理解いただき、知恵を出し合い良い案を出していただきたいと思う。
4. 自己紹介	今年度初めての運営協議会ということで、自己紹介をお願いしたい。
5. 議事録署名人の指名	今回は、瀧川和恵子委員と有賀克明委員に議事録の内容の確認をお願いします。
6. 議事 (1) 正副会長の選任について	議 長：どのように選任したらよろしいでしょうか。特になければ、事務局から提案があるということなのでお願いします。 事 務 局：会長には1号委員から野竹泰也委員に、副会長には3号委員から三堀善業委員にお願いしたいと思います。 議 長：ただいま事務局より提案がありましたが、ご異議ございませんか。 三堀委員：議会から選任しないとのことだが。 議 長：国保運営協議会は議会の常任委員長に副会長をお願いしてきた経緯があり、今回は是非お受けいただければと思いますが、よろしいでしょうか。ご異議なしと認めます。よって会長は野竹泰也1号委員、副会長は三堀善業3号委員と決定いたしました。 会長・副会長あいさつ ※これより会長が議長となる
(2) 平成24年度決算について	・国民健康保険特別会計 赤羽係長より別紙資料により説明 ・第一診療所特別会計 赤羽係長より別紙資料により説明 ・川島診療所特別会計 赤羽係長より別紙資料により説明

	<p>議長より質疑が受け付けられる</p> <p>岩田委員：繰出金にある町立辰野病院の 5,096 万円という金額の根拠は何か。</p> <p>赤羽係長：病院の建設及び医師看護師を募集したことによる補助金となっている。</p>
<p>(3) 平成 25 年度の課税状況について</p>	<p>矢ヶ崎専門員より別紙資料にて説明</p> <p>昨年度と比べ、今年度の収納率が 0.22%、滞納繰越の収納率が 3.12%、国保税全体では 1.09%アップしている。日々の滞納整理の効果が出ているのではないかと。今年度の国保税改正により 2,600 万円～2,700 万円の引き上げを見込んでいたが、所得、加入者の減少により 1,000 万円しか上がらなかったのが現状。今後は滞納整理を積極的に行っていきたい。今月は国保証の更新があるため、未納がある方は納税相談をしてから国保証を交付するようにしている。</p> <p>議長より質疑が受け付けられる</p> <p>古村委員：収納率や滞納繰越とはどのような数値が良い数値なのか。100%を目指すものなのか、0%にしなければならないものなのか教えてもらいたい。</p> <p>矢ヶ崎専門員：収納率は 100%を目指している。</p> <p>古村委員：24 年度の収納率を教えてください。</p> <p>矢ヶ崎専門員：24 年度の収納率は 96.26%。</p> <p>古村委員：滞納繰越とはどのようなものか。</p> <p>矢ヶ崎専門員：25 年度のを現年分とし、24 年度以前の滞納分は滞納繰越となる。</p> <p>古村委員：滞納繰越についてはどのような数値が良いものなのか。</p> <p>向山課長：100%が望ましい。24 年度の収納率が 96.26%、約 3%が滞納繰越となる。</p> <p>赤羽係長：資料 3 につきまして、一人当たりの医療費の速報値が出ていますので、ご確認ください。</p>
<p>(4) 第二期特定健康診査等実施計画について</p> <p>(5) 特定健康診査・保健指導実施状況について</p>	<p>入原保健師より別紙資料にて説明</p> <p>辰野町の人口は減少傾向にあり 65 歳以上の高齢化率が県や全国よりも高くなっている。要介護者の状況としては要介護 2 以下が年々増加している。介護が必要となった原因としては加齢による骨折、整形疾患、認知症が最も多く、次に多い脳血管疾患や糖尿病・循環器疾患で合わせて 32.0%を占め、これらの原因は生活習慣病との関連が深く、特定健診・特定保健指導で若い年代から生活習慣の改善が、要介護の予防にもつながると考えられる。</p> <p>第二期は平成 25 年度から平成 29 年度とし、5 年毎に見直しを行う。</p> <p>10 月、11 月に高血圧改善予防教室を実施します。</p> <p>特定健診未受診者への対応としては 8 月の医療機関健診の受診券送付の</p>

	<p>際と、国保証送付の際に受診勧奨と健康教室の案内を同封した。このような機会を捉え、啓発や受診率の向上に努めていきたい。</p> <p>24年度の特健診受診者数は男女合わせて1,730名。受診率は22年度より毎年度男女共に上昇している。しかし、40歳～60歳の受診率が低い現状にあるため、力を入れていきたい。</p> <p>議長より質疑が受け付けられる。</p> <p>金子委員：全体についてだが、25年度に6.62%の引き上げをしたときの収納見込みと、現状の収納した金額ではどれくらいの誤差があったのか教えていただきたい。</p> <p>赤羽係長：約2,700万円の見込みだったが、1,000万円しか上がらなかった。</p> <p>金子委員：人口が減少していく現状で、高齢化率が高くなり医療費も増えていく中で、被保険者数が減り、収入も減っていくとなると国保は今後どのくらいもつのか見込みを教えてください。</p> <p>赤羽係長：昨年度の審議会の際に1年間運営できる最低分の値上げをした。これ以上税率を上げることも難しいため、見込みが見つからない。医療費の削減、滞納整理に力をいれやっていきたい。</p> <p>向山課長：昨年が見込みが変わってきている原因が、後期高齢者医療制度へ移る世帯が多く、課税対象所得額の減少に繋がった大きな要因。今後、税率改定をしていく場合には、加味していかなければならない。</p> <p>昔は自営業者が国保へ加入するというイメージだが、退職を迎えた団塊の世代の方が多くなっているのが現状。現役世代に比べると課税所得が少なくなっているという点で試算が非常に難しい。いずれにしても、予防の徹底、徴収率の向上という課題に力を入れていきたい。</p>
(6) その他	国保運営協議会委員研修会が10/30開催予定
7. 閉会のことば	向山課長より閉会のあいさつがあり閉会